

釣り

Aブロック 全作品と講評

www.columnland.net/

にて作者さん＆読者さんの声実況中

そら

いつものようにヒマな休日

僕は久しぶりに釣りに行ってみた

その日は曇っていたので空が薄暗く周りに人は少ない

梅雨のじめじめして生温かい空気がなんだかうざったい

当たりがくるのを待っていたらだんだん僕の心まで曇ってきた

やっときた当たりはすべて餌だけ食べると逃げていつてしまった

その日の疲れも、あおいそらが癒してくれた

川釣りと父

中学生のとき一回だけ、父に「釣りに連れて行って。」と頼んだことがあったんです。決して仲の良い父娘ではなかったんですけどね。むしろ当時の私は、朝起きて父に「おはよう」の一言も言わないような思春期の真っ只中でしたよ。だからあの時どうしてあんなことを頼んだのか今ではよく覚えてないんですが、とにかく父の釣りにくっ付いて行っただけです。

父が好きだったのが「川釣り」なんですけどね。ほら、あの、山の中入って上流の方で釣るやつです。結構山奥に入るんですよ。釣りに行く朝、私がブーツなんて履いていこうとするものだから「そんなじゃ山登れない。」って怒られましたよ。

しかし川釣りって、なんていうか、すごい孤独ですね。よく釣れるように人のいないポイントを探して、しかも魚が逃げるからあんまり喋っちゃいけないんですよ。ひたすら黙って釣るんです。まあ私は釣りや魚というより、山の緑や川がとても綺麗で、むしろそっちのほうに感動していました。でもやっぱり釣り自体に面白みを感じなかったからか、あれ以来、私は釣りには行ってないです。

父はよく飽きもしないで毎週毎週、明け方から出掛けて行って、本当にすごいなと思いますよ。父が日曜の朝に家にいるのを、子供の頃はほとんど見たことが無かったくらいですからね。だから日曜の晩ご飯のおかずは必ず焼き魚なんです。

でも最近めっきり釣りに行かなくなっちゃったみたいで。母は「もう年だからだよ。」って言うんですけど、そんなもんなんですかね？釣りで以外の趣味なんか無さそうなんだから、心配ですよ。

今もう一回「釣りに連れて行って。」と頼んでも、父は私を連れて行ってくれるんでしょうか？釣竿を持ったときの、ちょっと生き生きした表情の父をもう一度見てみたいな、そう思うんです。

今日も日がな一日　釣り糸を垂らして

白く煌めく世界で　穏やかに過ごす

「この頃、全く釣れねえなあ」

一人ごちるが、それは

命を奪わずに済むという事であり、嫌な事じゃあない
むしろ好い事だ

だが、俺が釣らなくても

周りの誰かが釣れば関係ない
のかもしれない

命を釣るかは運に係っている

「俺が釣り上げたのは偶然かもしれないが
釣られた方は運命だったんだ」

そう思わなければ

命を釣る事に、とても耐えられない

「糸が引いてる」

抑揚のない声で呟く

さあ、これから死に来る者を迎えよう

死を司る者の挟持

決め台詞

金曜日の夜、家の近くのコンビニに行くのが僕の日課になっている。

漫画雑誌の立ち読みのためでも、夜食の調達のためでもない。

その日のその時間帯に、あの娘がバイトに入っているからだ。

あの娘に心を奪われてから半年——それから毎週通いつめている。

といっても、特別話をするわけではない。

僕とあの娘の関係は、今でもお客さんと店員さんのままなのだ。

今日こそは声をかけよう——。

いつもそう思いながらも、一歩踏み出せないでいる僕がいた。

しかし、ついに、その日はやってきた。

「ううっしやいませ。」

あの娘の明るい声が、今夜も店内に響き渡る。

商品棚を見ている振りをして、あの娘の姿をぬすみ見る。

まっすぐに下ろした黒く長い髪が、とてもよく似合っている。

僕はいつものように、別に欲しくもないコーヒーをあの娘がいるレジに持っていく。

あの娘もいつものように、慣れた手つきで会計をこなしていく。

そして最後に「う言った。」

「八百円のお釣りになります。」

(…あれ…今日はどうして八百円のお返しです。じゃなくって八百円のお釣りになります。うて言っただろう？ そちの方が言いにくい気がするけど…)

聞き慣れたフレーズと違ったせいか、僕は何故か無性に気になってしまった。

(…でもそういやお釣りがてなんでお釣りが言っただろう…お釣りの「お」は「釣り」を丁寧にするためのものだろうけど…何で返却するお金が「釣り」なんだろう…普通「釣り」て餌で魚をおびき寄せて釣り上げることでしょ？ こんなどろに魚なんているはずなのに…)

(待てよ…もしかして…もしかしたらお釣りも何かを釣るためのものなんじゃないのか？…お釣りを餌にして誰かを…人を釣るためものなんじゃ…)

(もしそうなら彼女が八百円のお釣りになります。うて言っただけで「お釣り」って言葉を使ったのは…誰から釣られるのを心のどこかで期待しているからじゃないのか？…そうだ…きつとそうに違いない！)

はっとして僕は顔を上げた。

僕があん娘を見る。あんな娘も僕を見る。

(それなら僕が言っただけよう——彼女の心を釣り上げてしまうような——最高の決め台詞を彼女に言っただけなんだ——)

「そのお釣りあげるから、今夜僕に釣られてみない？」

その時のあの娘の引きは、何者よりも勝っていた。

「ねえ、天の川に釣りをしに行こうよ」
ああ、これは夢だ。瞬時にそう判断できたのは初めてだった。私は底の見えない闇と、いくらかの光の粒の中に立っている。

「元気がないのでしょう？ 天の川に釣りに行こう。スピカが君を心配してる」

目の前の少年は私の手を掴むと、返事も待たずに駆け出した。突然のことに足が縛れたが、衝撃は無い。そもそも、この空間に足場という概念があるのかも怪しい。私は引かれるままに、光の粒子の間をすり抜けるのだ。

「天の川はね、凄いいんだよ。誰かの大切なもので溢れてるんだ。きらきらしてるのとか、ゆらゆらしてるのとか、たくさん釣れるの。でもね、どれが誰のものなのかは、その人にしかわからないんだ」

だからね、と少年は笑った。

「君が自分で見つけなくちゃいけないんだ。釣り糸も、大切なものも。僕は、スピカのお願いで君を案内しているだけの、ただの流れ星でしかないから」

ああ、あなたは流れ星なのね、それならスピカって誰？ そう尋ねようとしたが、できなかった。少年が歓声を上げたのだ。いつの間にか広がっていた、視界いっぱい光の流れ。天の川に違いなかった。

「ほら、行くよ、準備はいい？ 大切なもの、ちゃんと釣るんだよ。スピカのお願いだもの、元気にならないとだめなんだから」

振り向いた少年の瞳は、天の川を反射しているのだろうか、たくさん光が踊っている。不思議な色、不思議な光だった。思わず、見惚れて。

「あ、——」

次の瞬間、私の体は光の洪水の中にあった。飛び込んだのだ、天の川に。

「目を瞑らないで、ほら、探して」

少年の声が聞こえる。こんな釣りじゃない、そんな文句を言う余裕すら、今の私には無かった。ただ必死で目を開ける。探す。

ふわり、と、目の端で揺らいだそれに手を伸ばしたのは、ほとんど無意識だった。一度見つけてしまえば酷く違和感のある、その細い光の糸の端を、逃さないようにしっかりと掴んだ。

「ああ」

少年が嬉しそうな声を出す。

「良かった、ちゃんと釣れたし、釣ってもらえたね。これで元気になれるね。ねえ、忘れないで、スピカはいつだって君のことを大切に思っているよ」

糸を手繰り寄せた。反対側の端には、小さな真珠のプローチが——

はっ、と、唐突に目が覚めた。やはり夢だったのだ。当たり前だ、実際の宇宙はあんな構造ではないし、天の川に飛び込めるわけもない。でも、たとえ夢でも、それに救われることもあるのだと知った。箱を開けて、真珠のプローチを取り出す。先日逝った母の形見だ。そっと握って、囁いた。

スピカ

真珠星、どうか見守っていて

久しぶりに、笑えた気がした。

ザ・社説

先週のGW、満を持して高速道路が千円になった。そのおかげで久しぶりに田舎の実家へ帰郷した所、その緑の多さに改めて驚かされた▲緑で思い出したが、今日、五月十五日の誕生化は、釣鐘草だそう。別名、風鈴草とも呼ばれ、その鈴のようなチューリップのような形をした可愛らしい青や赤の花が五月中旬から六月中旬にかけて咲き、夏の訪れを人々に知らせる▲さて、先日、民主党の小沢代表が辞任会見を開いた。辞任理由は、やはり西松建設の違法献金事件が大きく絡んでいるのだろう。国民に対する説明責任、もとより、その不信任は政権交代を目指す民主党の足を大きく揺るがしかねない。▲奇しくも、高速道路千円均一の原案は、小沢氏を代表とする民主党の高速道路無料化案であった。当時、支持率が低迷していた麻生総理は、当初から否定していた民主党の高速道路無料案の対抗案を早急に自民党に練らせたそう。その焦りようは容易に想像できる▲今、我々国民は、その恩恵を享受している。しかし、よくよく考えてみると、政治家にとって、この高速道路千円均一もまた「国民の為」というよりは、目先の選挙に勝利するための「政争の具」のようだ。▲話は戻るが、今日は五月十五日。誕生花は、釣鐘草である。釣鐘草の花言葉は「誠実さ」だそう。こんな世の中だ。早く政治家の方々の心にも釣鐘草が育って欲しい。そう願ってやまない今日この頃である。

お釣り

今朝バイトのおねえさんの手がふれた。

今日はいいい日になりそうだ。

釣い男

男は何もない孤島にいました。

そこには動物も植物もなにひとつありませんでした。

男は釣り竿を持っていました。

「もう釣りのエサも尽きてしまったし、針だけでは釣れそうもない。何か良いエサはないものかなあ」

男は患いつきました。

「そつだ、はなとそをエサにしちゅう」

男は釣り針にはなくそをつけて、糸を垂らし
ました。

でも釣れません。男はまた思いつきました。

「ツメはきつてたんで」

やはり釣れません。男は腹が減りました。

「もうハラペコで死にそうだ。仕方ない、指を
エサにしよう。足の指にしよう。手はロッドを
持つのに必要だ」

男はナイフを取り出して、右足の親指をすくと切り落としました。そしてそれを釣り針につけて、糸を垂らしました。

すると小さな魚が釣れました。男はそれをつかつかと食って生きました。

でもいくらか釣ると、ついに足の指がなくなりました。

「俺は力ナツ子だからとつせ泳ぎもしないだろう。なら足もエサにしてみましたか」

男は足首に刃を立てて、ずぼりと切り落としました。そしてそれを釣り針につけて、糸を垂らしました。

すると中へういの魚が釣れました。男はそれをむしゃむしゃと食って生きました。

それでもしほぐすやうな面足がついになくなりました。

「まずい。もうエサにするやうがないぞ。」

男は思いつきました。

「ああそつだ。もう手の感覚だけでも釣りはできるから、目玉をエサにしようじゃないか」

男は万方の目玉をくりぬきました。そしてそれを釣り針につけて、糸を垂らしました。

すると大きな魚が釣れました。男はそれをもぐもぐと食って生きました。

目玉が二つなくなりました。

「においを感ぜなくても釣りはできる」

男は鼻を引きちぎって、エサにしました。

「誰からも声をかけられないから、耳をいじな
いだろっ」

男は耳を切り落として、エサにしました。

「話す相手もないし、舌もエサにでるんじゃないか」

男は舌を引き抜いて、エサにしました。

「痛い。けど、生きるためだ」

するととても大きな魚が釣れました。男はそれをばけりばけりと食って生きました。

もう男の体にはエサにするところがない
せん。それでも男は腹が減りました。

「・・・と、こゝで臨時ニケースです。本日未明、本國南海岸沖の孤島で切斷遺体が發見されました。犯人は未だに捕まっております、現場にはロッドを握りしめたままの首なしの上半身が残されており、釣り針には・・・」

ある日の夕方

「さて、そろそろ行くか。」

俺は今日もあいつに会いに行く。

あいつが暇そうだから先週も会いにいったやつた。

もう半年くらいの付き合いかもな。

あいつは俺と会うといつもとびきりの笑顔をする。

そして一方的に話しかけてくる。

まあ大抵無視してやるのだがな。

そのときの顔がたまらない。

あいつは時には俺の手を握ってくる。

あいつは俺のことが好きなのかもしれない。

いや…大好きだろう。

そうでなければ俺の手など握ってくる訳がない。

まあ俺も悪い気はしないから会いにいったやるのだがな。

「今日も諭吉さんの力を借りるか。」

そのほうがお互い都合がいい。

今日は話しかけてやるか。

あいつもきつと喜ぶだろう。

リュックサックを背負ってバンダナを巻いて俺は暗い部屋を飛び出した。
もちろんシャツはズボンに入れる。

「九千と八百九十五円のお返しです。袋はご利用ですか？」

「あつ、ふ、ふく、袋はいいでしゅ。」

全く困った女だ。

また今日も手を握ってきやがった。

しかし何だろう…

なんで店員たちは俺を見てにやにや笑っているのだろうか…

魚は釣れなかった

じかんは刻一刻と過ぎていく。

「大物を釣り上げるまで帰らないからな。」

「もう、大物どころか一匹も釣れてないじゃんよ。」

「ノープロBLEM。絶対釣ってやるぜ。」

「つりあげるのは、女のほうが得意じゃないのか？」

「まったく、のんびりしてて良い雰囲気だな。」

「はなし逸らすな。おい。」

「時間はまだあるんじゃない？ 良いだろう？」

「いい訳ねえだろ。それに正午に止めるって言ってただろ。」

「なあ、あとどのくらい？」

「れい時まで十五分だ、そろそろ帰り支度を…」

「ついにアタリがきたぞ。」

「グッドタイミング(?)かな？」

「んああああ。大物だ。」

「しかし、大変そうだなあ。」

「つつたあ、ああ、つつたあ！」

「いいジャン、何釣った？」

「ふ、ふくらはぎ——」

5日目

無人島に漂流してはや5日…

食糧は素手に底を尽き

空腹もはや限界

まだ、死にたくない

最後の力を振り絞って

今日こそ食料を！

……… つれないなあ。

……… つれないなあ。

……… お、ひいてる ひいてる！

コイキングを釣り上げた。

恋漁船のデュエット

♫「おお、おれがお前を釣ったのさ」

♀「ああ、私はあなたに釣られたわ」

☆「釣った男と釣られた女、愛の海に浮かんだ恋漁船」

♫「おれはトラックの運ちゃんさ、デコトラ転がし二〇年。おまえに初めて会ったのは、高速のパーキングだったよな」

♀「あら、良く覚えているのねあなた、そうよ海老名のパーキング。あなたが突然女子便に、入ってきたのが出会いだわ」

♫「はは、そんなだったか記憶にねえ。とにかくあなたはべっぴんだった、顔も胸も体型も、おれの好みに間違いねえ」

♀「あら、バカねあなたは恥かしい。でも、あんたも意外といい男、マッチョでクールでセクシイで、意外と気が利くまめ男」

♫「いや、照れるぜそんなに言われたら。お前はまったくかわいいな。家事もろくにできねえが、心はやさしくあったけえ」

♀「ばかねそんなに褒めてもね、何にも出ないわまったくもう。ぶんぶんぶんぶんぶんぶん、ぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶん」

♫「すねたなこの野郎、かわいいな。膨れたほっぺがキュートだぜ。おれがお前を釣ってから、お前はめつきりキュートだぜ」

♀「あんたに釣られてからの日々、キラキラ輝く三年半。いつも頼ってばかりで、迷惑だったね、ありがとう」

♫「までまで、そりゃあおれの方だ、ささえてくれてあんがとな。これからもずっといっしょだぜ。今後とも、どうぞよろしくな」

☆「らららら世間の逆風にも負けず、おも舵いっぱいめざすは港、幸せの待つ家庭向けて、らららららら」

☆「釣った男と釣られた女、婚約の風にのった恋漁船ららららら」

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	そら	5 pt 梅雨の気分先取りのじめじめ感が、「うざったい」の表現でストレートに伝わってきます。 だからこそ、ラストにぽっかり広がる「あおいそら」がまぶしく映える今週の表紙でした。特別賞に出るように、ひょっとして掛詞だったか？そこがヒットして最多特別賞でしたっ。祝！ 特別賞：蒼井そら賞（自然にこういうことを書けるのがすごい）僕たちも今日はあおいそらにいやされたいで賞（総意）AV（あぶ）ないで賞（あおいそら） イチオシフレーズ：「あおいそらが癒してくれた」×3	8 位	3 sp
A02	川釣りと父	7 pt 父を思う娘の気持ち。しみじみなつかし焼き魚気分 で、ずっと引き込まれるトークです。 ドラマティックなことは何も起こらない。そこがいい。 もうすぐ父の日だなあ。	5 位	0 sp
A03	無題（死を司る者の……）	1 pt 釣り人と見せかけて、なんと死神サマのご降臨。 なるほど、今日び死神サマたちも集団でお仕事をなさるのですね。人口、多いからね。 「偶然」か「運命」かなんて、セリフ回しもぴしりと効いて、命を釣る側の気持ちをあざやかに造形していただきました。 ラストの「挟持」が、ちと、むずすぎたか。 イチオシフレーズ：「俺が釣り上げたのは偶然かもしれねえが釣られた方は運命だったんだ」「死を司る者の挟持」×2	12 位	0 sp
A04	決め台詞	15 pt わはははは。ドン引きぶりまざまざと。妄想乙！ コンビニお釣りシーンは、今回ずいぶんと多かったのですが、話運びの軽快さと妄想の飛びぶりで際立ってました。やったね銀メダル、おめでとう!! 特別賞：ドン引きで賞 夢を見過ぎカブリ過ぎで賞（79 と共同受賞） イチオシフレーズ：「そのお釣りあげるから、今夜僕に釣られてみない？」×2	2 位	2 sp
A05	無題（真珠星）	4 pt お星さまに導かれて。 きれいな、少し悲しいストーリーです。 その悲しみを、天の川で遊泳（?）というシーンののびやかさで包んだところが、ここちよい。しっとりと浸れました。 特別賞：見守っているで賞（話の構成が上手かったか	9 位	1 sp

		ら)		
A06	ザ・社説	14 pt	3 位	1 sp
		ツリガネソウを攻めてみたアイディアに星みつ。 天声人語風のカッチリしたまとまりに星ひとつ。 政治批判をもう少し型通りでないおさめかたにしていた だけるとなお良いかな。「国民のため」と「政争の具」という2つの魚を同時に釣ってみせるのが、プロの政治家たるものの腕の見せどころだと思うのです。 今回は硬派で攻めて、しっかりブロンズメダルゲットの作者さん、おめでとう!! 特別賞：毎○新聞賞（上手い!!）		
A07	お釣り	6 pt	6 位	1 sp
		ささやかな一日の始まり。 誰でも経験ありそうな。 どんなおねえさんだったのか、読者の想像に任せすぎずに、あとひとことだけあってもよかったか。 特別賞：天津木村みたいで賞（今夜いけそうな気がするから）		
A08	釣り男	17 pt	1 位	2 sp
		わあん、グロだグロだ。お食事前になんてこと！ でも、そのグロをおもしろく飲み込ませてしまうのは、展開のテンポの良さと、「むしゃむしゃ」「ぱくりぱくり」と合いの手をつとめる擬音たちの賑やかさ。 人間の業（ごう）の深さ、なんていう大テーマを果たして作者さんが意図しておられたかどうか？ たしかに、生きるというのはそれと引き替えに何かを差し出してゆく、ということなのかも。かも？ 練り込んだストーリーも表現も、しっかり評価してもらえて、おめでとう金メダル!! 特別賞：グロいけど深いのかもしれないで賞（まじょコメントより） グロテスクで賞（ゾクゾクするグロ表現よく書いたな!!）		
A09	ある日の夕方	3 pt	10 位	0 sp
		トンデモ勘違い。 この作者さんの巧さは、一人称トークなのに、しっかり客観的に勘違い君の姿が見えてくるところでしょう。 「もちろんシャツはズボンに」とかね。さりげなくすぐに爆笑でした。 イチオシフレーズ：「あっ、ふ、ふく、袋はいいでしゅ。」×3		
A10	魚は釣れなかった	9 pt	4 位	1 sp
		がんばったぜいヨッコヨミ。 ふくらはぎオチ、ナイス！ ほらこう、タテにしてみるとふくらはぎに見えてこない？ 特別賞：ひらがなはワカリニクイで賞（後から気付いたから） イチオシフレーズ：「ふ、ふくらはぎ」×2 「ふいつしんぐつれない時はまつノも大じ」		
		6 pt	6 位	2 sp

A11	5日目	なるほど「コイキング」ですか、そうですか。 どんなキャラだっけ、と各班で話題になる親しみやすさでした。 でも、やはり既成キャラに頼っちゃってるのは弱いな。 留学生さん作品も登場してますし、グローバル、目ざしてくださいな。 特別賞：なつかしいで賞（コイキングなつかしい〜） はねる賞（コイキングは滝登りも覚えさせるとギャラドスに進化する……わけない。で微妙に盛り上がったから） イチオシフレーズ：「コイキングを釣り上げた。」
A12	恋漁船のデュエット	3 pt10 位2 sp 恥ずかしいセリフも歌だからヘイキ？ いや、やっぱり恥ずかしい。 そこを強引に突破していただきました。 それにしても、こ〜んなにべったべたのおふたりさんなのに、3年半も経って、まだ婚約中？ そこがとっても気がりです。 特別賞：意味不明賞（意味がわからない）歌謡賞（釣られました）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	釣りにおける生態ピラミッド	5 pt	6 位	1 sp
		おお、母最強。さすが。 きれいに字数を揃えて、生態系として見せていただきました。 特別賞：釣りというよりツリーだよね賞（かたちがピラミッドというよりツリー） イチオシフレーズ：「母」		
B02	晴れときどきえさ	22 pt	1 位	1 sp
		宇宙人の釣り。なんてユニークな。 日常の地続きに、ぼろんぼろんと学食サンプルやらマネキンやらを転がして秀逸なラストへ。 各シーンの映像的な見せ方のうまさになりました。 がっつり書いたのに、しっかり読んでもらえて、おめでとう金メダル!! 特別賞：マネキンはNGで賞（マネキンじゃ釣れないよー）」		
B03	昼下がりの嘆き	1 pt	11 位	0 sp
		カフェの隣の席から聞こえてくる別のドラマが自分に重なる。 そうして少年は、またひとつおとなになってゆくのでした、と。 コンパクトにまとめてナイス。		
B04	無題（希望と絶望）	0 pt	12 位	0 sp
		構成が良いですね。今度はどっちになるのかなあと気になりつつ終わり、とすることで、読者が釣られた魚の気分になれます。 留学生さん発の日本語でした。あたたかな拍手をありがとう。		
B05	釣り	3 pt	10 位	0 sp
		ぼくの無邪気な幼さが文体にしっかり出ています。 釣り堀かなあ？		

		人間セリフの置き場所、もっと上にしたかった。
B06	無題（首つり）	5 pt6 位0 sp わー、お父さん、だめーと娘の気分になって止めたくありません。 それくらいに、ずっと感情移入できてしまうのは、これを決行するに至った経緯が何も書かれていないおかげかもしれません。 面倒なストーリーを省いて、気持ちの揺れだけにフォーカスした作戦成功。
B07	しらすの魚拓	15 pt2 位7 sp 本文1文字。しかも記号。な、な、なんて大胆な！ しっかり楽しんだフロアも偉い。とくに黒川紀章の似顔絵まで添えたB-10班グッジョブ！ シルバーメダル&最多特別賞&イチオシフリーズ大賞ですっ、おめでとう!! 特別賞：日乃賞（一文字） ガチですごいで賞（発想が天才） the視界デザイン賞（アイディア押し theでした。） 黒川紀賞（位置、構図、発想において良しと判断（笑）） しらすで賞（しらすだから）×2 発想は素晴らしいが負けてくやしいで賞 イチオシフリーズ：「、」×8
B08	スーパーマリオ○ワールド	4 pt8 位2 sp テレビの幼児番組のような、賑やかな楽しさでした。 大多数の人にとっておなじみであろうゲームの世界を別視点からコトバ化。 リズムの良さとイメージのあざやかさが身上ですね。 そして、ここ重要！ マリオ（←伏せ字にしません）を全く知らなくても、楽しめます。A-11「コイキング」との違いです。「みんな知ってるよね」ネタで攻める場合は、ぜひこのラインを目ざされてください。 特別賞：作者はゲーマーで賞（リズムがすごくよかったから。） Bダッシュ賞（マリオでラップふんでる。）
B09	釣りのすゝめ	4 pt8 位0 sp えーと、薦める？ >タイトルそこがやや疑問。 でも、釣ったら見られない、そのやさしい気持ちそのままの流麗フォントで、しっとりお届けいただきました。 イチオシフリーズ：「命の輝きは美しい」
B10	青春の一ページ	8 pt5 位3 sp おーい、ガキどもよ、それって犯罪だぞー!! これだけ期待させておいて、作者不在って、もしや逃亡？ しらすにはリードを許したけれど、特別賞もイチオシフリーズもこんなにいただきました。めでたしめでたし？ 特別賞：ノーパン!?賞（被害者の女性の方が犯罪かもしれません） すけべ賞（青春時代のすけべな部分が露呈されていてよかったから。） 俺はcoolな水色が好きで賞（男は黙って水色） イチオシフリーズ：「大人の黒」「ぬーおおおおおおおおおおお！」×2 「ふっくらとした肌色の桃」 ☆そしてだいじな後日談☆ お茶会に作者さん降臨。ねぼー、と主張しておられました。もちろん作者さんトークをお願いしました。「勇者だねー」とその場のみなさまに祝福されていたような。
		10 pt4 位1 sp 個人営業漁師さんに託して、ささやかな人生へのいとお

B11	仕事ってもんは、	しみと誇りを披露。 五十年の時の重みを、重々しくないトークで、さっくり。 「静かに体温が上がっていく」なんて、ほんとに主人公に寄り添った気持ちにならないと出てこない表現でしょう。なりきり具合がおみごとでした。 特別賞：海の漢賞（かっこいい） イチオシフレーズ：「もう少しぐらい付き合っやるのもまあいいか。」
B12	無題（何も帰ってこなかった）	13 pt3 位0 sp ネタと見せかけて、じつは人生の大問題への深い問いがひそんでいるような、いないような。 「心の空虚」すら帰って来ない無償の愛はありうるか？ ラストセッションのその日まで、ふかーく心に沈めておきたい今週の読み納めでした。 おめでとうブロンズメダル！